



写真:二ホンノウサギの足跡 (平成25年12月22日えびのエコミュージアムセンター付近)

足跡をたどって

木も草も雪の布団に覆われる中、雪のおかげで、動物たちが生きていることを知ることができます。

厳 冬期に入り、えびの高原はマイナス10℃以下まで冷え込むことがあります。木も草も雪の布団に覆われて眠りの中、変化の少ない穏やかな日々です。

次々と花が咲く春が恋しくなりますが、この時期ならではの楽しみもあります。雪が降った翌朝、辺りを歩いてみるとさまざまな足跡が残されています。ケンケンパをしたような跡はノウサギ、二つのひづめはシカ、ぴよんぴよん跳ねているのはテン、小さな足跡の間にはまっすぐ尻尾の跡があるのは野ネズミ、野鳥の足跡もあります。足跡を見分けることができれば、面白いのは動物たちの行動を想像すること。向こうの茂みからやってきて、立ち止まって行ったり来たり、それから草原のほうへ走って行ったようだ。足跡をたどっていくとふんが落ちていて、その中には近くにある木の実の種が入っていることもあります。雪のおかげで身の回りにたくさん動物たちが生きていることを知ることができます。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

アニマルトラッキング
 animal tracking

動物の足跡、糞(ふん)、食事をした跡などを観察しながら追跡し、生態を観察して自然に親しむこと。